

全科協 ニュース

URL <http://www.kahaku.go.jp/JCSM/index.html>

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110-8718 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成10年5月15日発行(通巻第160号)

特集 平成9年度第2回総会及び第5回研究発表大会開催

— ミュージアムパーク茨城県自然博物館 —



ミュージアムパーク茨城県自然博物館

<平成9年度第2回総会>

平成10年3月11日(水)、ミュージアムパーク茨城県自然博物館において、平成9年度第2回全科協理事会及び総会が開催されました。

総会の出席館は69館、委任状提出館は99館で、審議された結果、平成10年度事業計画(案)、平成10年度収支予算(案)、平成9年度予算の補正(案)及び、平成10、11年度役員館園の選出の各議案について承認されました。

その結果、昨年に引き続き「共同企画展等調査研究委員会」と「科学系博物館における標本資料のデータベース化の標準化に関する調査研究」を実施することになりました。

また、今年度の「海外科学系博物館視察研修」はアメリカ合衆国の博物館を視察することが決まりました。訪問館はスミソニアン博物館機構(ワシントン)や、ヒューストン

宇宙科学館(ヒューストン)、ロサンゼルス郡立自然史博物館(ロサンゼルス)などを予定しています。

以上の事業計画を含め、理事会・総会で承認された主な内容を紹介します。

<平成10、11年度役員館園の選出>

平成10、11年度の役員館園の改選にあたり、理事館のうち滝川市美術自然史館、御園高原自然学習村から役員辞退の申し出があったため2館の退任、それに伴う札幌市青少年科学館、鳥羽水族館の就任案が提出されました。

同じく、監事館のうちアリタキ・アーボレータムから監事館の辞退申し入れがあったため、東芝科学館の就任案が提出されました。審議の結果、事務局の提出した原案どおり了承されました。

新しい役員館園は次の表のとおりです。

平成10・11年度役員館園

	館 園 名	代表者
理事長館	国立科学博物館	坂元弘直
理事館	NHK放送博物館	松本太郎
	愛媛県立博物館	濱田毅明
	大阪市立自然史博物館	那須孝悌
	科学技術館	園山 裕
	神奈川県立青少年センター	薬師神不二夫
	交通博物館	大橋宣夫
	斎藤報恩会自然史博物館	西澤潤一
	佐賀県立博物館	鶴丸岩男
	札幌市青少年科学館	矢野義和
	通信総合博物館	鈴木猛夫
	天文博物館五島プラネタリウム	村山定男
	鳥取県立博物館	西垣幸信
	鳥羽水族館	中村幸昭
	富山市科学文化センター	布村 昇
名古屋市科学館	樋口敬二	
監事館	たばこと塩の博物館	上野堅實
	東芝科学館	浅田靖之

<加盟館園の状況>

昨年6月に行われた平成9年度第1回総会から第2回総会までに新たに正会員2館、購読会員1名の入会がありました。

事務局には入会についての問い合わせも何件もあり、今後も加盟館は増加すると思われます。

1. 館園数

平成10年3月11日

区 分	平成9年6月25日 第一回総会時	平成10年 3月11日現在	内 訳		増△減
			入会	退会	
正 会 員	228	230	2	0	2
購読会員	22	22	1	1	0
維持会員	34	34	0	0	0
計	284	286	3	1	2

2. 入退会館園

区 分	館 園 名	備 考
入 会	石の博物館	正 会 員
	福山自動車時計博物館	正 会 員
	西原 司朗	購読会員
退 会	沢井 睦子	購読会員

3. 正会員の設置者別内訳

区 分	館数(%) 平成9年6月25日現在		館数(%) 平成10年3月11日現在		増△減	
	館数	(%)	館数	(%)		
国 公	1 国	7	(3.1)	7	(3.0)	0
	2 都道府県	47	(20.6)	47	(20.4)	0
	3 市町村	93	(40.8)	93	(40.4)	0
私	4 財団法人	25	(11.0)	26	(11.3)	1
	5 株式会社	37	(16.1)	38	(16.5)	1
	6 個人	4	(1.8)	4	(1.8)	0
	7 社団法人	2	(0.9)	2	(0.9)	0
8 その他	13	(5.7)	13	(5.7)	0	
計	228	(100.0)	230	(100.0)	2	

平成10年度全国科学博物館協議会事業計画

I 管理運営

1. 理事会

年2回開催する。第1回は平成9年度事業報告及び収支決算報告等について審議する。第2回は平成10年度の事業計画(案)及び収支予算(案)について審議する。

	開催時期	会場
第1回	平成10年6月下旬	国立科学博物館
第2回	平成11年3月上旬	滋賀県立琵琶湖博物館

2. 総会

理事会に準ずる内容の審議に加え、記念講演・施設見学等を行う。

	開催時期	会場
第1回	平成10年6月下旬	国立科学博物館
第2回	平成11年3月上旬	滋賀県立琵琶湖博物館

II 事業

1. 研修事業

(1) 博物館職員現職研修

(ミュージアム・マネジメント研修)

博物館経営に関する資質向上を図るため、生涯学習時代における博物館の役割、博物館経営の視点等の講義、討議

を行い、博物館経営者としての力量を高める。

実施時期：平成10年12月上旬(4日間程度)【予定】

会場：国立科学博物館等

参加者：40名程度(正会員)

共催：国立科学博物館

(2) 学芸員専門研修(アドバンスト・コース)

博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集保管、調査研究、展示、教育普及活動等についての専門的、実践的な研修を行う。

実施時期：平成10年10月下旬(5日間程度)【予定】

会場：国立科学博物館等

参加者：30名程度

共催：国立科学博物館

(3) 海外科学系博物館視察研修

アメリカ合衆国の科学系博物館における展示技術、教育普及活動等について視察研修を実施する。

実施時期：平成11年1月上旬(14日間程度)

参加者：20名程度

訪問館：スミソニアン博物館機構(ワシントン)など
6館程度



総会会場



平成9年度海外科学系博物館視察研修

2. 連携促進事業

(1) 研究発表大会

博物館活動の充実に資するため、展示、教育普及活動等に関する成果について、発表および研究討議を実施する。

実施時期：平成11年3月上旬

参加者：正会員、維持会員

訪問館：滋賀県立琵琶湖博物館

(2) 共同企画展等調査研究委員会

加盟館園の巡回展を含めた企画展等の実施状況等について調査を実施する。また、文部省からの委嘱事業「科学系

博物館における展示活動に関する国際比較研究」の実施、及び「科学系博物館活用ネットワーク推進事業」の巡回展開発・運営モデル事業の実施に取り組む。

(3) 科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究

科学系博物館が有する標本資料に基づいて、自然史及び科学技術等に関する全国的なデータベースを構築するための標準フォーマットに関する調査研究を行う。

(4) 事業に対する共催・後援等

加盟館園や関係機関が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められる事業に対し共催・後援等を行う。

III 広報普及事業

(1) 機関誌の発行

機関誌「全科協ニュース」を年6回A4判12ページ各号1,400部を発行する。なお、特集記事は特集執筆館が担当する。

【担当】

明石市立天文科学館 平成10年7月号 (Vol.28, No.4)

秋田県立博物館 平成10年9月号 (Vol.28, No.5)

神奈川県立生命の星・地球博物館

平成10年11月号 (Vol.28, No.6)

江ノ島水族館

平成11年1月号 (Vol.29, No.1)



平成9年度海外視察研修訪問館国立科学技術館（キャンペラ）

愛媛県立総合科学博物館

平成11年3月号 (Vol.29, No.2)

(2) ホームページの運営

全科協ホームページの充実を図るため、全科協ホームページの内容の充実を行うとともに、新たにホームページを開設した加盟館等のリンク作業を実施する。

(3) 入会案内及び広報活動

新設の科学系博物館等に対して入会の勧誘を行うほか、全科協の活動について関係機関、団体、企業等に対して広く広報を行う。

<全科協活動報告>

総会終了後「文部省博物館振興施策紹介」として文部省生涯学習局社会教育課地域学習推進室の占部浩一郎室長から平成10年度博物館関係予算等の概要について紹介がありました。

次に全科協平成9年度の活動から、共同企画展等調査研究委員会報告のうち文部省委嘱事業「科学系博物館活用ネットワーク推進事業」の巡回展開発・運営モデル事業について国立科学博物館飯田和郎普及部長が、また、同じく文部省委嘱事業「科学系博物館における展示活動に関する国際比較研究」の概要及び平成9年度米国自然史系博物館調査について国立科学博物館浅井孝司普及課長が、米国理工系博物館調査については国立科学博物館佐々木勝浩理工学研究部長が報告を行いました。

次に、国立科学博物館理工学研究部理工学第二研究室の前島研究官が科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究委員会の報告をカメイ社会教育財団からの助成により実施したアメリカ歴史博物館での調査結果を中心に報告を行いました。

最後に事務局から、国立科学博物館普及部普及課の志津田博物館情報専門官が全科協情報ネットワークの運用報告として、文部省委嘱事業「科学系博物館活用ネットワーク推進事業」のホームページの総合的な高度化・普及支援事業について報告を行いました。

<第5回全科協研究発表大会>

平成10年3月12日(木)

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

3月12日(木)茨城県岩井市のミュージアムパーク茨城県自然博物館を会場とし第5回全科協研究発表大会が『科学系博物館におけるネットワーク活動の取組みと展開』というテーマで開催されました。

はじめに理事長館である国立科学博物館の飯田普及部長、会場館であるミュージアムパーク茨城県自然博物館の中川志郎館長が挨拶を行いました。

その後、基調講演に移り、横河電機株式会社技術館準備室長の松本栄寿氏が「博物館ネットワークと科学技術博物館」と題して講演しました。



横河電機株式会社技術館準備室長の松本栄寿氏

次に事例研究として名古屋市科学館の佐伯平二学芸第一係長が「特別展(巡回展開催)活動の取組」について名古屋市科学館が既に取組をはじめている巡回展活動の紹介や今後の特別展活動についての提案などを発表を行いました。

午後には千葉県立中央博物館の堀江義一環境教育研究科長が「博物館の地域ネットワーク構築についてー千葉県立博物館情報システムのシステム再構築について」と題し旧システムの反省から新システム構築への過程などについて研究発表を行いました。

続いて会場館であるミュージアムパーク茨城県自然博物館の中山静郎教育課長が「学校と連携する普及活動をめざして」と題して同館の事例について発表しました。

研究発表の後、研究協議に移り、国立科学博物館の吉武弘喜教育部長が問題提起を行い、3つのグループに分かれて分科会協議を実施しました。



分科会協議

分科会終了後、再び吉武教育部長が全体のまとめを行って研究発表大会を終了しました。

14日には会場館であるミュージアムパーク茨城県自然博物館の見学会が行われ、職員の方々の説明を受けながら、バックヤードも見学することができました。

この研究発表大会には62機関74名の方が参加されました。なお、次回平成10年度の第2回理事会、総会及び第6回研究発表大会は、滋賀県草津市にある滋賀県立琵琶湖博物館を会場に開催される予定です。



14日見学会



**感動環境
創造会社です。**

NOMURA

株式会社 乃村工藝社

本社/東京都港区芝浦4-6-4 電話03-3455-1171(代) 〒108-0023
ホームページ <http://www.nomurakougei.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工



COLORATA

Venture Into The Past **The Living Earth** Communication For The Future

ミュージアムグッズの企画・デザイン

カローラタ株 〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F
TEL 03-3865-8110 FAX 03-3864-4049

— 全科協情報 —

<加盟館情報>

平成10年度から次の3館が新規に全科協正会員に加入しました。

東京ダイヤモンドミュージアム

開館時間：10：00～17：00（入館は16：30まで）

入館料：大人500円 中高生300円

休館日：毎週月曜日

所在地：〒110-0015 東京都台東区東上野1-26-2

ジュエラーズタウンオーラム4F

TEL：03-3834-9700

FAX：03-3834-9701

TEPCO 銀座館

開館時間：10：30～18：30（入館は18：00まで）

休館日：毎週水曜日

入館料：無料

所在地：〒104-0061 東京都中央区銀座6-11-1

TEL：03-3575-0456

FAX：03-3575-0434

滋賀県立琵琶湖博物館

開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）

休館日：毎週月曜日

入館料：大人500円 高校・大学生400円 小中学生250円

所在地：〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

TEL：0775-68-4811

FAX：0775-68-4850

<国際会議のお知らせ>

1998年科学技術博物館北京国際会議

開催日程：平成10年9月3日（木）～5日（土）

会場：中国北京科学技術博物館（北京）

1997年5月に設立されたアジア太平洋地域科学技術協会の第1回の公式会議であり、アジア太平洋地域の科学系博物館のネットワークの推進を目的としている。

会議のテーマは「科学館・博物館と学校教育の連携」、「科学館・博物館の展示デザイン」などが予定されている。

第2回世界科学館会議

開催日程：平成11年1月11日（月）～15日（金）

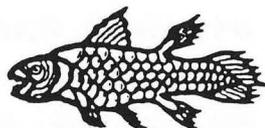
会場：カルカッタ・サイエンス・シティ

ヨーロッパの ECSITE(European Collaborative for Science, Industry and Technology Exhibition)とアメリカの ASTC(Association of Science and Technology Centers)が提唱者となり、世界の科学館等のネットワーク化、活性化及び相互の情報交換等を目的に平成8年6月に世界科学館会議がフィンランドで開催された。今回は同会議の第2回目の会合であり、科学博物館の国際的なネットワークの推進・強化を目指している。

美術

はく製

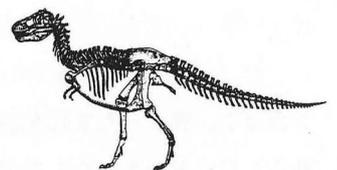
〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限会社 **東洋近代美術研究所**

製作所 〒272-0816 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎047-337-5678
☎047-337-5883
本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 FAX 047-338-1978
☎047-374-1564

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

海外ニュース

安井亮事務所

台湾で国立科学技術博物館が開館

中国台湾省の高雄市に、約10年の工事期間を経て、国立の科学技術博物館が、1997年7月に開館した。同館は、展示棟と教育普及棟の二つの建物からなり、建築延べ床総面積が114,355平方メートルあり、うち展示面積は35,000平方メートルある。18室からなる常設展示は、「中国の科学技術の発達史」、「日常における先端技術・情報・エネルギー」、「さまざまな材料」と「さまざまな機械」の四つの大テーマに分かれている。

フィラデルフィアで、恐竜展示ホールが改装オープン

フィラデルフィア自然科学博物館(Academy of Natural Science)では、このほど恐竜の常設展示が大々的に改装されて、1998年3月18日にオープンした。従来の展示では、化石標本や樹脂模型が中心であったが、今回の改装では大々的にマルチメディア展示技術が導入されたことが特徴的だ。同展には、南の巨大恐竜と呼ばれているジガノトサウルス(Giganotosaurus)、ティロサウルス(Tylosaurus)、ジファクティヌス(Xiphactinus)、パチセファロサウルス(Pachycephalosaurus)、トリセラトプス(Triceratops)、ティラノサウルス(Tyrannosaurus rex)、エオラプタ(Eoraptor)、ヘレラサウルス(Herrerasaurus)、アクロカンソサウルス(Acrocantnosaurus)、ベロシラプター(Velociraptor)、ディロフォサウルス(Dilophosaurus)、マジュンガソルス(Majungatholus)の他に、28個の化石化した恐竜の卵も紹介されている。

ボーズマンで、米国におけるパソコンの発達を紹介した常設展がオープン

米国モンタナ州ボーズマンにあるコンピュータ博物館で、このほど4月11日に、アメリカにおけるパーソナル・コンピュータ(パソコン)の発達を紹介した常設展示がオープンした。American Computer Museum(Bozeman, MT)シカゴで、異なった文化を持った人々がどのように仲良く暮らしているかを紹介した常設展示がオープン

現代アメリカは、言うまでもなく人種のサラダボウルであり、個々の民族的文化を大切に維持し、互いの文化を尊重しながら共生を行っている、正確には努力しているが、1997年11月に、シカゴのフィールド自然史博物館で、異なった民族文化をもった都市住民の共生を紹介した常設展『リ

ビング・トゥゲザー』がオープンした。導入展示では、世界各地から収集された135足のくつが観覧者を迎えてくれる。Living Together

パリで、経口薬『アスピリン』に関する展覧会が開催中

抗炎症・解熱・鎮痛等で広く使われているアスピリン aspirin の開発にまつわるエピソードや、その効用と副作用のしくみを紹介した特別展が、パリの発見の宮殿で開催されている。1998年6月30日まで。

フィラデルフィアで、チョウを紹介した展覧会が開催中

米国ペンシルバニア州のフィラデルフィア自然科学博物館では、1997年から開始した世界のチョウを紹介する企画展のシリーズの第3弾として、アフリカの熱帯雨林に生息するチョウの生態を紹介する生きた企画展が開催されている。昨年開催された企画展では、中南米コスタリカと東南アジアのマレーシアの希少種繁殖ファームで繁殖されたものが生きてもって来られたが、今回のチョウはケニヤで行われているキペペオ繁殖プロジェクト(アラブコ・ソコケ繁殖ファーム)で繁殖されたものがもって来られている。館内に設けられた特設飼育展示ホールは、チョウの生息地と同じ気候が再現され、また生息地と同じ食糧となる蜜がとれる植物も同じホール内で栽培展示されている。なお、この展示ホールの横には、飼育されたチョウの原産地の熱帯雨林を紹介した映画も紹介されている。観覧料は無料。1998年12月末まで。

ワシントンで、火星の岩石を紹介した展覧会が開催中

ワシントン国立スミソニアン自然史博物館では、アーサー・ロス記念いん石展示ホールにおいて、火星から飛来したいん石を紹介した企画展示が現在開催されている。同展では、火星のいん石が、どうやって、いつ、どこに落ちたかの情報を教えてくれている。

ロサンゼルスで、玩具の科学を紹介した展覧会が開催中

1998年2月7日に、カリフォルニア科学産業博物館から館名も内容も規模も一新したカリフォルニア科学館(California Science Center)では、おもちゃの科学を紹介した企画展を開催している。同展では、ブロックやドミノ等、ごく日常的に子どもが使うおもちゃにある科学原理が紹介されている。1998年5月末まで。Science in Toyland

サンフランシスコで、宇宙から見た地球の写真展が開催中

カリフォルニア科学アカデミーでは、アメリカ航空宇宙局 (NASA) が打ち上げた多くの人工衛星やスペースシャトルから撮った地球の写真を紹介した写真展を開催している。同展では、古代文明の遺跡や、人類が遺した巨大な建造物が紹介されている。1998年6月28日まで。

フィンランドで、森林資源の保護をテーマにした展覧会が開催中

フィンランドは森林が豊かな国として知られているが、現在子どもを対象に、その森林の保護を改めて確認する目的の企画展『森と私』が、フィンランドの代表的な科学館であるヘルレカで開催されている。同展は、現代生活に欠かせない資源としての樹木だけでなく、森林を住み処としている動物の生態学にも重点を置いた展示内容である。1998年5月末まで。Forest and me

ヒューストンで、中国のヒスイを紹介した展覧会を開催中

日本の科学系博物館では、美術展を見る機会がなかなか無いが、アメリカの現在ヒューストン自然科学博物館で、中国・清朝の美しいヒスイ (翡翠) の彫刻を紹介した巡回展が開催されている。同展はカリフォルニアにあるポワーズ博物館が館蔵品の翡翠工芸品を使ったものだが、ヒューストン自然科学博物館のあとに、米国各地の科学系博物館をい巡回する予定だ。

ロサンゼルスで、ロボット仕掛けの恐竜展を開催中

ロサンゼルス郡立自然史博物館では、現在ロボットを使った恐竜の特別展を開催している。同展で紹介されている恐竜ロボットは、卵を抱くマイアサウラ (Maiasaura) や巨大恐竜のアルバートサウルス (Albertosaurus)、エウプロセファルス (Euoplocephalus)、テノントサウルス (Tenontosaurus)、パチセファロサウルス (Pachycephalosaurus)、デイノニチユス (Deinonychus) が登場している。1998年5月17日まで。

セントポールで、パイプオルガンの展覧会を開催中

米国セントポール市のミネソタ科学博物館では、現在パイプオルガンの歴史と科学原理を紹介した企画展を開催している。プロの演奏家によるパイプオルガンのコンサートも館内で行われ、人気を博している。1998年7月17日まで。Festival Organ: King of instruments

NYで、エンパイヤー・ステート・ビルディングを紹介した展覧会が準備中

1996年にニューヨーク中心部に設立されたスカイスクレ

ーパー博物館 (skyscraper は、空を掻く超高層ビルの異名) で、有名なエンパイヤー・ステート・ビルディング (1930年竣工/地上102階) の構造と工事の進行を紹介した企画展の準備が進行中である。オープンは1998年7月。

新しいホームページ

国立科学技術博物館 (中国台湾省・高雄)

<<http://www.nmns.edu.tw>>

American Museum of Science & Energy, Oak Ridge U.S.A. <<http://www.kornnet.org/amse>>

Anniston Museum of Natural History, Anniston U.S.A. <<http://www.aniston.org>>

Bakken Library and Museum, Minneapolis U.S.A. <<http://www.bakkenmuseum.org>>

Biosphere 2 Center, Oracle U.S.A.

<<http://www.bio2.edu>>

Bluedorn Science Imaginarium, Waterloo U.S.A.

<<http://www.cedarnet.org/grout>>

Bradbury Science Museum, Los Alamos U.S.A.

<<http://www.lanl.gov/external/museum>>

Brooklyn Botanic Garden, U.S.A.

<<http://www.bbg.org>>

Buffalo Museum of Science, U.S.A.

<<http://www.sciencebuff.org>>

California Science Center, Los Angeles U.S.A.

<<http://www.casciencectr.org/>>

Carnegie Science Center, Pittsburg U.S.A.

<<http://www.csc.clpgh.org>>

COSI Toledo, U.S.A.

<<http://www.cositoledo.org>>

Cumberland Science Museum, Nashville U.S.A.

<<http://www.infi.net/~csmnet>>

Detroit Science Center, U.S.A.

<<http://www.sciencedetroit.org>>

Discovery Center, Santa Ana U.S.A.

<<http://www.launchpad.org>>

*安井亮事務所 : Fax.0427-36-5916

E-mail:QFH03327@niftyserve.or.jp

海外科学系博物館視察研修(その2)

Questacon - The National Science and Technology Centre 国立科学技術センター(キャンベラ)



Questacon 国立科学技術センター外観

設立：1988年建国200年祭にオープン

(日本政府より1,000万 A\$寄附する)

設立主旨：オーストラリア国民に科学を平易に理解させるため生活に基礎をおいた体験展示を主体としている。

規模：総面積 9,600㎡ (内展示 2,500㎡、ショップ 800㎡、その他特展室等2,000㎡)

職員数：78名 (身分は国家公務員)

その他補助職員 ボランティア (月～金) 300名
高校生 (土～日) 約60名

予算(1997年) 1,010万 A\$ (内 訳：連邦政府 520万 A\$、入場料ショップ340万 A\$、寄附(スポンサー) 150万 A\$)

入館者数：(1997年) 29万人 (内学生14万人)

○管理運営について

- ① 常設展示など解説指導は主としてボランティア職員が担当し約300名を3交替制(月～金)で、土・日は高校生が社会奉仕活動として指導に当たっている。
- ② 学校との教育連携は博物館の当然の義務としてプログラムを組む。先生達は1週間単位でグループを構成、体験宿泊研修させている。又小学生達も3、4泊の予定で体験宿泊学習させている。(宿泊設備は完備)
- ③ 常設は全て参加体験出来る展示として学習出来るように制作されている。特に特徴あるものとして、国内各地に科学教育を普及させる巡回展示教材をパッケージして開発し巡回する〈サイエンスサーカス〉と称して学芸員

が同行して指導を行っているシステムである。広大な国内で科学館に来られない子供を対象とし約120万が利用しているとのこと。

- ④ 展示の制作は欧米と同様で業者に依頼するのではなく、館内職員により全て作られるため、学芸員との意思疎通が完全で学習展示として完全であると思われる。

特別展などの場合は学芸員が企画し資金調達を行い、その予算に応じて規模を定め、制作は一部外部にも依頼するとのこと。

- ⑤ 国立の博物館であるが前記のように収入の半額は補助としてもらうが、残額はすべて自己の収益、寄附にて運営している。国情、税制の相違はあるが、職員の事業意欲の努力で運営していることは、おおいに学ぶべきことである。

- ⑥ Questacon (通称の由来)

初代館長が大学教授の時代に学生のために創作造語した言葉で、大変ユニークな言語で親しみ易いため、館のシンボルとブランド固定を計り使用し、今日に至っているとのこと。

- ⑦ 訪問当日ビジネスランチを開催していただき、副館長以下3名及び日本大使館の斉藤一等書記官も出席して貰い、1時間半に渡り、博物館関連のみでない討論が出来たことは大変有意義であった。

- ⑧ Questacon の質疑応答者は副館長以下4名が当たってもらえた。

〈斎藤報恩会自然史博物館 斎藤恩次郎〉

○展示について

建築に際しては、200年祭を記念して日本より1,000万ドルを寄付されたとのことで、日本との関係も大いにある博物館である。展示の内容は、恐竜、光と音、力学に関するもの、天文学に関するものがあり、展示の方法は、ハンズ・オンを基本に子供達が出来ただけ手で確かめて理解できるように展示がなされている。

また、ワークショップ(展示造作の作業場)も展示場の一角にあり、いかにも子供達に、「博物館の展示物は、ここ

で作るのだよ」と伝える様にガラス張りの部屋で構成されている。

館の活動の方針は、科学に対して自信を持てるようにする、また、科学は生活に役に立ち面白いものであると言うことを気づかせることだと言っている。

その活動の基本を中国のことわざから、When I hear, I forget When I see, I remember when I do, I understand というキーワードで表現されている。

一般の人が科学に関心を持てるように、また分かり易く広く伝える為の活動を行っている。ここで作られたプログラムは、広くアジア(タイ、香港等)の人々とも交流を行っている。また、日本の NASDA と10年目を記念して企画展示の計画が検討されている。

特別展は、毎月テーマを変えて展示が行われ、特別展示のスケジュールは、1月が Flight、2月 Octopus Garden、3月 Environment、6月 NASDA space、と言うように様々な企画が計画されている。

また、この博物館の活動内容は、インターネットのホームページでも紹介されている(<http://sunsite.anu.edu.au/Questacon/>)。

ここでは、Virtual tour という館内を擬似的にガイドするページもある。このインターネットのサイトは、SUN のサイトの様である、更に、1階のエントランスに置かれて有るインフォメーション端末も IBM の記載があり、企業の協力も大きな力となっているようである。

〈松下電器産業株式会社 システムプランニングセンター
総合計画部副参事 松村 誠〉

○教育普及活動

SCHOOL PROGRAMSとして exhibitions・science show・work sheets・math resources・teacher professional development work shop・teacher resource material・student activity work shops・publicationを持っている。これらのことは、学校教育の担当のスタッフで考えられ運営されている。

学校が来館したときの教育プログラムの作成、生徒に対する質問用紙の作成、説明にあたるボランティアの教育や人員割りなども教育担当のスタッフで行われている。

この中の「teacher professional development work shop」では簡単にできる実験キットを基にして講習会を開

催している。実験キットは、つくることの楽しさを先生方のためしてもらって、現場で役立ててもらおうという趣旨で行われている。ここでは館の特徴である移動展示のノウハウがうまく生かされている。

この館の特徴の一つになっている「SCIENCE CIRCUS」という移動展示は、若いスタッフを中心にしているが、1年に6回いろいろなところに出向いている。1ヶ所にだいたい1週間滞在し、1回出かけると4ヶ所を回るようになっている。これまで「SCIENCE CIRCUS」が出向いたところはオーストラリア全土に及んでいる。

この移動展示の特徴として挙げられるものは、展示が学校教育と密接に関係しているところである。学校の教育プログラムの中にある原理・法則などを実験しながら確かめていく方法が取られている。「SCIENCE CIRCUS」は、移動したところで日中は学校を訪問し、夜は地域のホールを利用してSHOWを見せるようになっている。説明を受けたときに展示物の移動をどのようにするのか……と思った。実際に展示物を見せてもらって驚いた。まず内容はほんとうにわかりやすくできている。原理や法則を簡単な仕組みで体験できるようになっているのである。これは専門家が工夫をして大切な部分をどの様にすれば理解させられるかを、とことん考えた結果であろう。

特筆すべきことは、頑丈にできていて、すべてが同じ大きさのケースに収納できるようになっている。展示しているときには展示台であるが、展示が終わればそれは収納用具になってしまう。またこの地域に移動するかによって同じ内容のものでも説明文を変えるなどの工夫もされている。(例えばシドニーに行くとき、南太平洋の島々に行くときなどでその地域のレベルに併せて説明の内容を変える)この「SCIENCE CIRCUS」に参加している若いスタッフはそれぞれ大学でその専門を勉強してきて、学校教育の支援にあたっている。

このように大規模に展示物を移動させて学校教育に役立てているケースは、今までの視察では見なかった例である。これらはあくまでも移動展示用に作られているので、本館の展示には影響を与えないが、新しい展示物を作成して、移動展示に出ていないときは、本館の展示ホールで展示されている。

〈仙台市科学館 事業部指導主事 國井恵子〉

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
URL <http://www.tanseisha.co.jp>



INTERIOR / EXTERIOR / DESIGN / EQUIPMENT
ONY KOBO CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102代 FAX (03) 3221-1185



動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

Practical Specimens for Study of Earth Science

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)
岩石薄片製作(材料提供による薄片製作も受け賜ります。)

大英博物館/恐竜復元模型

縮尺: 実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

TEL 03-3350-6725

上京時にはお気軽にお立ち下さい。

(特に化石関係は諸外国より良質標本を多数直輸入し、力を入れておりますので教材に博物館展示等にぜひご利用ください。)



Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 **東京サイエンス**

本社 〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イオ・アネックスビル
TEL. 03-3350-6725 FAX. 03-3350-6745
ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL. 03-3354-9439

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用
ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事
業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちして
おります。

編集後記

5月号の特集は、国立科学博物館が担当しました。

今回は、明石市天文科学館の担当です。

ご期待ください。

このニュースは再生紙を利用しています

感じる科学

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス



▲人体型ロボット
コスモ博士(国崎科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205-0023 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL0425(30)3911(代)・3939(営業)
FAX0425(30)3900・3927(営業)